

開成山地区

(福島県郡山市)

- 計画期間 平成20年度～24年度
- 面積 76.0ha
- 交付対象事業費 4,591.9百万円
- 市人口 328,267人 (地区内人口 98,843人)

ポイント 安全で安心な防災のまちづくり
～日本一の防災機能を目指し、健やかな
子どもを育むまちづくり～

地区概要 市の中心部に位置し、郡山市役所など市の中核的な行政機能や市民の憩いの場である開成山公園を有する地域である。

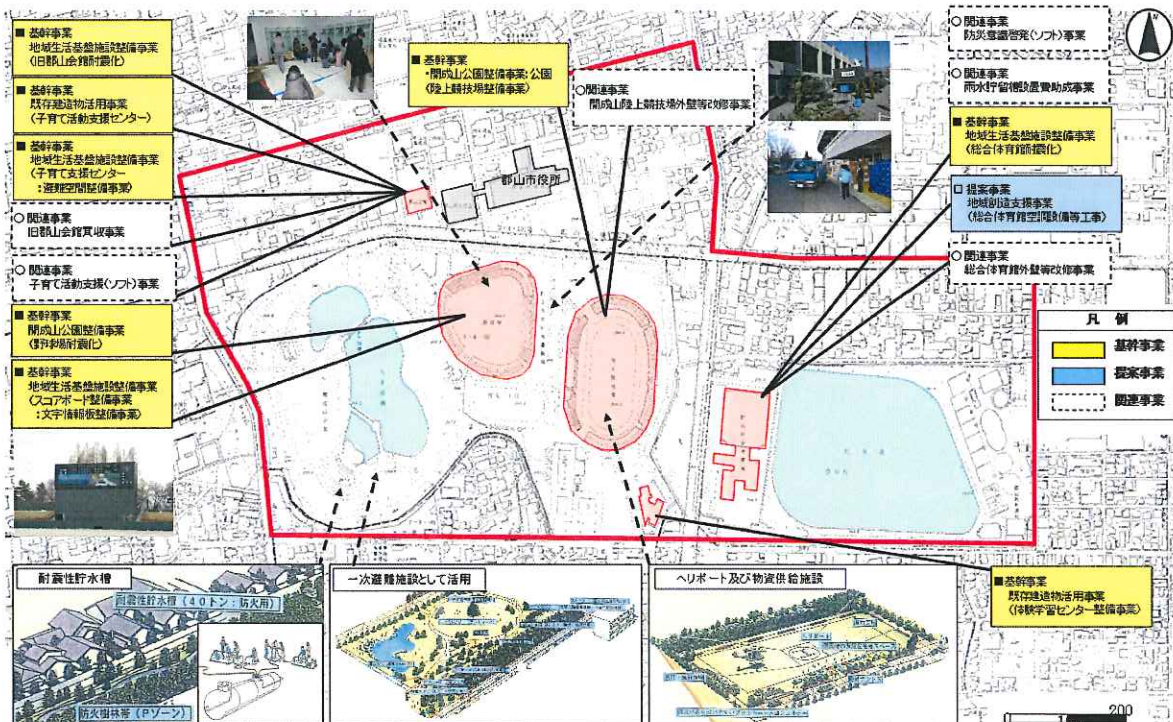
目標

- 目標1 災害に備えて、広域避難所を整備し、市民が安全に暮らすことができる環境を整備する。
- 目標2 災害発生時、市民が安全に避難する施設を確保するとともに、避難者の健康にも配慮した環境を整備する。
- 目標3 福祉、保健、教育各分野の連携を図り、市民の身近な施策である総合的な子育て支援を行い、市民が安心して子どもを生み、育てることができる環境を整備する。

指標 「防災」「子育て」をテーマとした各拠点施設の整備をすることから、避難面積の確保、避難施設として活用及び総合的な子育て支援施設の利用者を指標とした。

避難圏域における 避難面積	1.3 m ² /人 (H19) → 1.7 m ² /人 (H24)
公共施設の耐震化率	30% (H19) → 80% (H24)
子育て活動支援施設 利用者数	100人/日 (H19) → 265人/日 (H24)

事業内容 基幹事業 (3,760百万円) → 公園 (2箇所、耐震・施設改修)、
地域生活基盤 (3箇所、耐震改修、避難空間設備、文字情報版整備)、
既存建造物活用 (2箇所、移設・改築)
提案事業 (831百万円) → 地域創造支援 (総合体育館空調設備等)



地区の現況と課題

開成山地区は、公共施設が集中し、災害時には広域的な避難拠点としての役割を期待されていた。しかし、その多くは、耐震基準が充足していない施設であったために、大地震発生時には活用できない恐れがあった。また、子育て世代が多く居住している地区でもあることから、その多様なニーズに応える拠点施設の整備と体系的な子育て支援を実施する必要性があった。

計画地区を複数のエリアにわけ、その役割・機能を明確にした施設整備を行うこととした。

提案事業の特徴

避難施設の環境整備

総合体育館の耐震化を図るとともに、長期収容避難に対応した避難所と位置づけ、東日本大震災の経験を活かして、避難者の健康に配慮して空調設備やトイレ等を整備、改修に反映させた。

計画策定プロセス

プロジェクトチームの設立

スピード感を持って効率的、効果的な事業の推進を図るため市内横断的にプロジェクトチーム「開成山地区整備推進本部」を平成19年11月に立ち上げる。また、段階的整備で得た課題・問題点、各種市民団体等からの要望等を共有し、改善をしながら事業を進めている。

各種検討委員会の設立

学識経験者や市民代表者からなる「開成山野球場整備事業検討委員会」や「郡山市子育て支援総合施設整備検討委員会」からの提言を踏まえ、計画に反映させる。

品川萬里市長のコメント

今回の表彰は、開成山地区における「防災」及び「子育て」の二つのテーマについて、総合施設の整備やスポーツ施設への長期避難の施設整備など、さまざまなアイデアを盛り込みながら、計画立案させたことを評価いただけたものであり、今後もより多くの市民の皆様にご利用いただけるよう努めてまいります。

公共事業評価委員会大槻会長のコメント

福島県は東日本大震災及び原子力発電所の事故からの復興の道半ばです。震災時、既に耐震補強されていた施設については、その計画の有用性が証明されました。開成山地区が防災拠点としての優れた機能と特性を持っていることを、今後も市民に広く周知していった欲しいと思います。

郡山市子ども総合支援センター100万人目のお客様春本さんのコメント

郡山市子ども総合支援センターは、何度も足を運んで利用しています。この施設は、子どもに関する相談や手続きが一か所済ませることができるので大変便利な施設です。また、保育も兼ねていてお母さんとしては、とても助かっています。今後とも、未来を担う子どもたちが夢を持てる健全な環境づくりを進めていって欲しいです。



▲ 医務室・シャワー室等を整備。
社会的弱者にも対応可能（開成山野球場）



▲ 避難者の健康に配慮し整備。
長期収容避難に対応可能（総合体育館）



▲ 物資集配拠点やヘリポートとして整備
（開成山陸上競技場）



▲ 災害時の総合窓口として活用
（郡山市音楽・文化交流館）



▲ 総合的な子育て支援の拠点施設
（郡山市子ども総合支援センター）